

# 如水会寄附講義「社会実践論」講義要綱（2007年度冬学期）

講義責任者：山崎秀記

2007年10月2日（火）オリエンテーション

14時40分 東2号館 2201番教室

如水会寄附講義「社会実践論」では、産業界等、社会の第一線で活躍されている本学の12名の先輩の方々が、週1回ずつ（火曜4限）オムニバス方式による講義をされます。

皆さんが、将来の職業選択を軸に大学でこれから何を如何に学ぶかを考える指針となるように、現在第一線で活躍されている諸先輩に、「学生時代に何をしたか」、「社会に出てどういう転機があったか」等自らの体験を交えてお話しいただきます。講師の方々は、自分の歩んでこられた、そしていま歩んでおられるところから、社会を、日本を、あるいは世界を切り取って皆さんにわかりやすく提示し、皆さんが、現代社会とそこでの社会実践のあり方を個別具体的に考える機会を与えてくださることでしょう。

皆さんは、1回きりの講演をただ聞くというだけでなく、先輩の生き方や考え方にふれて触発されたものを質問や感想・意見として返し、ともに考え学ぶ場を作り出してください。

なお、本講義は、如水会および一橋大学の学問風土の活性化を目指して故永井正（22学）氏が寄附された基金をもとに運営されている一橋大学後援会「キャプテン・オブ・インダストリーを考える委員会」からの資金提供によって運営されています。

## 講義日程

### 第1回 10月9日（火）



テーマ：「一橋の精神と風土」

講師：大澤俊夫 東京商科大学・昭和27年卒  
元NECリース（株）会長

#### 講義内容

一橋大学は、私塾の商法講習所からスタートし、今日のが国屈指の社会科学の総合大学に発展するまでに至った。しかしその道程は平坦なものではなかった。数回にわたる学園存亡の危機があったが、その都度全学が一致して闘い克服してきた。しかもその間、常に本学はわが国の経済社会の近代化の先駆者として学問と実践の両面にわたって有為な人材を輩出してきた。このような本学の活力を産み出してきたものは何であったか、その「精神と風土」について語り、併せて、本学の建学の精神を体現する言葉「キャプテンズ・オブ・インダストリー」の現代的意義について言及したい。

### 第2回 10月23日（火）



テーマ：「常識の嘘」

講師：山田伸二 社会学部・昭和48年卒  
NHK解説主幹

#### 講義内容

経済の世界では、普通皆がそうだと思っていることが実はちっとも正しくないと言うことが沢山あります。例えば「デフレ」がその一つです。小泉内閣時代、小泉・竹中コンビは「デフレが諸悪の根元」だと喧伝し、悪のりしたマスコミはこれに乗って、すっかり世の中の常識になってしまいました。日本の様に、消費者物価が1%前後と言ったマイルドなデフレであれば大騒ぎする話ではなく、実際デフレの下で、戦後、そして、史上最長の景気拡大が続いています。通説・俗説が、いつの間にか「常識」になってしまう落とし穴について、取材を通して考えたことをお話ししたいと思います。

